

令和2年度使用 小学校国語科（国語）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<p><「言語活動」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決的に学習が展開できるよう、単元を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」で構成し、1年間の見通しが持てる扉で導入されている。 ○ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各単元に身に付けたい「言葉の力」を設定し、単元を通して明示され、指導事項を意識して学習が進められる。 ○ 単元末の「ふり返る」では、自らの学習の過程について価値付ける視点を投げかけるとともに、「言葉の力」を他教科等の学習や実生活に活用することを促す「生かそう」を設けている。 ○ 単元の始めに前年度に学んだことが記されており、既習事項を生かし学習できる。 ○ 巻末にある言葉の広場がとても充実している。言葉の量が豊富で参考になる。 <p><「情報の取扱い方」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「言葉の力」を支え、深い学びの基盤となる知識・技能として「語彙」や「情報の扱い方」を重視し、学習指導要領に示された事項を中心に、着実に身に付けられるようにしてある。SNS投稿の例示を行うなど、児童の実態に即した内容になっている。高学年ではプレゼンテーションという言葉を使い、鮮やかな写真やグラフなどを使った発表の工夫が具体的に示しており、児童が取り組みやすい。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 青やオレンジ色の字やマーク、余白もあり、ユニバーサルデザインを取り入れている。また、「読む」のインデックスが青色で囲っており、ゴールが示されている。 △ 目次ページの最後にあるQRコードを使用してインターネット上のデジタルコンテンツにアクセスできるが、漢字プリントやワークシート等の教材が中心である。 △ 他社と比較し文字が小さく、絵やイラストも少ない。
学校図書	<p><「言語活動」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな言語能力を育成する工夫があり、学習に必要な技能や、見方・考え方を働かせて言語活動を進めていくためのヒントをまとめている。 ○ 巻末の授業で使う言葉の掲載が多様で、授業で扱いやすい。 ○ 中学年では点字のページがあり、実際に体験しながら学ぶことができる。 △ 他の出版社に比べ、言語活動例が少ない。 <p><「情報の取扱い方」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の関連づけや整理の仕方についての教材を配置している。 △ 単元が情報の学びかどうか明記されておらず、確認しながら進める必要がある。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年とも上・下分冊で、持ち運びが便利である。 △ QRコードを使って、インターネット上の教材にアクセスできるが、ワークシートや作者の年表が中心である。 △ 色使いが地味である。

<p>教育出版</p>	<p><「言語活動」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉による「見方・考え方」を豊かに育み、言語活動を通して、言葉の力としての「資質・能力」を身につけていく構成になっている。 ○ 単元計画と言語活動が対応するように示され、授業を進める際に参考にしやすい。 <p><「情報の取扱い方」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報の扱い方を具体的に示している。 △ 情報に当たる単元が明記されていないため、確認しながら進める必要がある。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年とも上・下分冊で、軽量化を図っている。 ○ 巻末の付録で紹介されている内容が多く、本の紹介も多く掲載されている。 ○ 大きいサイズの写真が使用されており、児童が内容を理解しやすい。 △ QRコードを使用してインターネット上のデジタルコンテンツにアクセスできる単元が多いが、教科書の拡大画像や他サイトへのリンクなどである。 △ 児童の興味・関心を引く教材、実態に沿った教材があるとよい。
<p>光村図書</p>	<p><「言語活動」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の発達段階、学習の習熟度、目的、必然性を考慮し、多彩な言語活動を系統的に位置付けている。「確かめよう」⇒「学習の進め方」⇒「ふりかえろう」の構成で、見通しを持ち、学習できる。「見通しをもとう」というマークがあり、何を学ぶ単元か、どんな力をつければよいかを児童にもわかるようになっている。 ○ 指導事項に沿って、何を、何のために、どう学ぶのかが一目でわかる構成である。また、「読む、書く、話す・聞く」がマークと共に示され、わかりやすい。 ○ 「漢字の広場」「言葉の宝箱」など、語彙の豊かさ、論理的思考力、感性を培うために工夫されている。さらに、季節に関わる言葉や表現が時期を考慮し示され、語彙を広げる手立てとなる。 ○ 振り返りコーナーにチェック欄があり、児童が学習を振り返ることができる。 △ モデル文が長いものがあり、苦手な児童にとっては負担に感じてしまう。 <p><「情報の取扱い方」について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学びを多方面へ広げ、深め、つなげる工夫として、「情報」の教材を4か所新設し、主張と事例や、調べた情報の使い方などに関して系統的に学べるようになっている。 △ インターネットやSNSの投稿など、児童の実態に合った資料があるとなおよい。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ QRコードを使用してインターネット上のデジタルコンテンツにアクセスでき、児童が教材に興味・関心を持ち、深い学びにつながる資料（音声や動画）を収めている。家庭でも、手軽に学習の手助けができる点もよい。 ○ ユニバーサルデザインに配慮した色の使用・配列がされている。また、青いインデックスがついており、見やすく、わかりやすい。 ○ 見通しを持ったり、既習内容を振り返ったりしながら、主体的に学習が進められるように、高学年は、学年1冊構成になっている。